

「すこやかに学ぶ子ども像」について

1 「すこやかに学ぶ子ども像」の策定

河内地域学校園（すこやか河内学校園）における小中の学び（指導）をつなぐためには、目指す児童生徒像について、小中の指導者がこれを共有することが重要である。そこで、「すこやかに学ぶ子ども像」を策定し、本地域学校園児童生徒のあるべき学びの姿を具現化することとした。また、本地域学校園の児童生徒にもあるべき姿に近づくよう働きかけ、「すこやかに学ぶ子ども」としての自覚を持つことができるよう指導・支援する。

2 「すこやかに学ぶ子ども像」の趣旨

児童生徒のあるべき姿を以下の3点に絞り、重点化する。

- ① 学び方
- ② 家庭学習
- ③ 言語運用能力

3 重点化の詳細

①「学び方」について

児童生徒一人ひとりに自己理解を促し、個（自分）に応じた目的意識を持たせる。自分なりの目標に応じた学習方法（学び方）を身に付けさせることができれば、能力差のある学習集団中にあっても自己に有益な活動を見つけ、継続させていくことができる。

②「家庭学習」について

知識・技能の定着を促す反復練習は、授業中はもちろんであるが家庭学習でも行う必要がある。自分なりの「学び方」に応じた家庭学習のあり方を継続的に指導し、自ら学ぶ児童生徒の育成を目指す。

③「言語運用能力」について

本地域学校園児童生徒について最も求められる能力は「思考力」である。そのため本地域学校園では「授業コンセプト」を設定し、言語運用の改善から思考力を伸ばすことを図ろうとしてきた。本児童生徒像でもコンセプトを共有する。

4 「すこやかに学ぶ子ども像」

- ・ 学び方を身に付けている子ども
- ・ 家庭学習の習慣を身に付けている子ども
- ・ 言葉の正しいつかい方を身に付けている子ども

5 発達段階に応じた児童生徒への働きかけ、「すこやかに学ぼう」

※ ①「学び方」②「家庭学習」③「ことば」の3つの観点から設定。

○ 基礎期（小1～小4）

- ① 「すすんで」学習
- ② 1日 学年×10分＋10分
- ③ 言葉をつかって「話す」

○ 活用期（小5～中1）

- ① 「見通しを立てて」学習
- ② 1日1時間
- ③ 言葉をつかって「伝える」

○ 発展期（中2～中3）

- ① 「わかる」「できる」学習
- ② 1日2時間
- ③ 言葉をつかって「考える」

6 学びを支援する指導者のあり方

① 「学び方」に関して

- ・ 興味・関心を高められる課題を提供する。（基礎期）
- ・ 目的に応じた学習技能を指導する。（活用期）
- ・ 予習を奨励し、適切な内容と量を指導する。（発展期）
- ・ 個に応じた学習活動を提示し、児童生徒を飽きさせないようにする。
- ・ 目標と評価基準の個に応じた最小の到達段階を提示し、評価を適切に返すことで児童生徒に達成感を味わわせる。

② 「家庭学習」に関して

- ・ 「すべき」課題を明確に与える。
- ・ 「どのように」と、方法を明確に伝える。
- ・ 「やってよかった」と感じられるよう、児童生徒の活動を必ず見取る。

③ 「ことば」に関して

- ・ 使える言葉を増やすことができるよう、語彙の指導を行う。
- ・ 言語の使用例や表現例を示し、児童生徒が活用できるようにする。
- ・ 言語の使用場面を適切に設定し、児童生徒の言語使用の量を増やす。
- ・ 「話し方」を指導する。（基礎期）
- ・ 「伝え方」を指導する。（活用期）
- ・ 「考え方」を指導する。（発展期）

※ 学習の根幹である小学校での1単位時間45分、中学校での1単位時間50分を児童生徒に保障するため、授業開始時刻と終了時刻についてこれらを厳密に守るようにする。